



～お葬儀屋さんのひとりごと～

「家族葬」のメリット・デメリット

家族葬は家族を中心としたお葬式の事です。この言葉自体は、商売用に葬儀屋さんが作った言葉ですから、決まった形はありません。「家族葬」という言葉は「お葬式」と意味は変わりません。実際にどのように使っているかというと、あまり知らせずに家族、親族だけで小さめにやろうねって意味くらいで使っています。会社や隣組などに知らせずに、小じんまりしようっていうのが「家族葬」です。これがどうして流行ってきたかというと、約20年前バブルの時代は、大規模な200人も300人も会葬者が来るようなお葬式が多かったんですね。そうすると家族のみんなも準備から会葬者の対応まで大変だったんです。中には、亡くなった方とあまり付き合いの深くない方、この人誰なんだろう方もいらっしゃいます。そこで、こんなに大変なら親しい人たちだけでこじんまりしたお葬式で良いんじゃないかっていうことで、反動で「家族葬」が流行ってきたんですね。家族葬にしようかな、と悩んだ時は、こういうメリット・デメリットを考えてみてください。

メリット：さっきも言いましたが、自分の親の事を知らない会社関係の人が、何十人、何百人と来てくれるのは非常に有り難い事なんですけど、それは本当に意味があるのかなって思いますよね。そういうふうに時間を取られるんだったら、親しい身内だけでゆっくりお別れをしたほうがいいんじゃないかなってというのが、家族葬の最大のメリットです。

デメリット：お葬式って一回しかやらないじゃないですか。そうすると「家族葬」の場合、故人の友人や自分の親友から「何で教えてくれなかったの」って言われてしまうことがあります。知らせる範囲って非常に難しく、誰に知らせるかリストアップするじゃないですか。すると、リストから漏れた人が「親友だと思っていたんだけどなぁ」ってなっちゃう事もある。呼ぶ人を絞ってしまうと、そういうふうに言われることもあります。

それから、後から知ったひとが、自宅にお参りにくる事があります。特にお付き合いの広い方、若くして現役で亡くなった方なんかそうですが、そういう方が家族葬でお葬式をすると、葬儀後に亡くなった事を聞いた方達がお自宅に「お線香あげさせて下さい」ってお参りに来る。来るのが何時何時って分からないから、家を空ける事もなかなか出来ない。これは家族葬をされた方から良く聞きます。「家族葬」といってもやることに変わりはありません。特別な「家族葬」というやりかたは無いんです。葬儀は「家族葬」も含めて一つ一つご希望を聴いていくんですけど、中には、「家族葬」というパッケージのお葬式があると思っている方もいるんですね。お葬式というのは、何処で何を、というふうに個々の事を一つ一つまとめていかないと実際の正体に目鼻が付かないところがあります。

葬儀の疲労

【女性 32歳】

私の父が62歳で亡くなった時、私を含めて3人の子供達は、社会人ではありませんでしたが、まだ結婚前で、独立しているとはいえない状態でした。ですから葬儀のいっさいは、母が「喪主」という形でとりしきることにになりました。父は、元教師で寺の住職もしており、周りの方々の意向で、参列者が便利なようにと、葬儀は土曜日に行なうことになりました。父が亡くなったのは、土曜日であり、本葬までに一週間あくことになりました。

葬儀は家族を失った悲しみに、さらに儀式による心身両面のわずらわしさが多く、葬儀を済ませてしまうまでは、遺された者にとっては大変な日々を過ごすことになります。この一週間のために、家族全員が接客や心労などでぐたぐたに疲れてしまいました。特に中心になって葬儀を運ぶ役目の母と兄、それに高齢の祖母はすっかり体がまいってしまいました。父の葬儀後、今まで病気をしたこともない母が肝臓を悪くし、7年以上たった現在もよくなり、かえって年令を重ねると共に、母の体を苦しめています。

私が一番提案したいのは、葬儀は遺された人々にとって心身共に最も負担の少ない方法をとることが大切だということです。できるなら、葬儀は早くすませてしまう方が良い。体面や人の噂より、何より遺された人々が早く立ち直って健康な生活を送れることが良い。葬儀によって体調を崩し、その後ずっとそれに苦しめられるのは、あまりに悲しい事だと思うのです。

死者の供養は心の問題です。無理をしてまで盛大な葬儀をしても、それで全てが済んだ訳ではないのです。私は遺された人々が一番楽のできる葬儀が、これからの葬儀に最も必要な事だと思います。

